

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 19号

2012/10/8 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、欧州トレーダーへのインタビュー（独自取材）

昨日、欧州でカカオのトレーダー、またナイジェリアのカカオ磨砕工場の販売責任者をやっている方とお話をする機会がありましたので、その際の要旨を下記にご報告いたします。

①欧州の第3四半期の磨砕数量が落ち込むと予想はされているが、消費の落ち込み＝磨砕数量の落ち込みではない。カカオ豆のトレーディングでは需要と供給が比較的合っている気がするのですが、一番の問題は世界的なカカオ磨砕数量キャパシティの過剰である。インドネシアやアフリカで磨砕工場が増えている現状、コストの高い欧州での磨砕数量が打撃を受けるというのは不思議ではない。

②磨砕数量の落ち込みについては、実際、欧州の大手磨砕業者の多くが現在50%前後の稼働率ではないかとの所見を述べていました。（実名は控えますが、業界大手がだいぶ生産調整をしているようです）

③アフリカの比較的小さな磨砕業者は数社ある（南アやナイジェリア、カメルーン等）が現在の世界的な磨砕事業の低収益率からいって、これが続けば長い間存続可能ではない。インタビュー担当者が販売を行っているナイジェリアの工場では、主力商品の原料販売のほかに、小売商品と位置付けて、小売用のココアパウダー飲料（100%ナチュラル、ミルク&シュガーミックスタイプ）を製品化し、人口が1億以上いるナイジェリアは勿論、ルワンダ、ザンビア、ウガンダなどに販売攻勢をかけているとのこと。

④カカオ豆の価格は、一般市場で言われているより、裏では様々な価格が存在すると思う。一般的に、西アフリカの2国（ガーナ、次いでコートジボアール）はカカオ豆のプレミアムが高いが、同様（以上の）品質でも生産数量が少ない国はもう少し安い。現在のいくつかの産地の価格は下記の通り。

- | | | |
|--------------------|-----------------|---------------------|
| A)ナイジェリア産メインクropp | ロンドン市場に対してトン当たり | <u>マイナス15ポンド</u> |
| B)インドネシア産クropp指定なし | ロンドン市場に対してトン当たり | <u>マイナス50~30ポンド</u> |
| C)フィリピン産 小規模農家より | ロンドン市場にたしてトン当たり | <u>マイナス30ポンド</u> |
- *上記全て生産国輸出港 FOB 価格

上記のようにロイター社等で何度か伝えております、コートジボアール、ガーナはプレミアムがプラスに対して、多くの他の国ではロンドン先物市場に対してマイナスの場合もあります。もちろん、生産者にとってはロンドン相場よりも、実際の金額として“いくらで売れるか”が重要であり、結果として相場価格が下がれば、マイナス幅が解消されていく傾向にあります。

⑤小売市場では、チョコレートその物ではないが、ネスレのミロの様なタイプのドリンク飲料やビスケット市場等を考えるとやはりカカオ関連商品の消費が伸びていて今後も成長が期待できるのはアジア市場とアフリカ市場である。

2、コートジボアール産カカオ豆平均売り出し価格は 1,223CFA=US\$2.41/kg(10/3)

コートジボアールの農務大臣は2012/2013年シーズンのカカオ豆を平均1,223CFAフラン=**\$2.41/kg**で1月より開始されていた入札期間で販売したと発表した。この平均価格は重量をベースにした加重平均価格で9月30日までに販売された分であるとのこと。

(\$1=507.1180CFAフラン)

*これまでの発表では大凡2012/2013年産の全体数量の80%は既に販売されたと報道されている。

3、コートジ産カカオの仲介業者のマージンは輸出価格(CIF)の22%に決定(10/2)

政府の広報担当官によると、2012/2013年シーズンのコートジ産カカオ豆に関して、輸出者や仲介業者等、農園から輸出港である港までの『集荷、物流』を請け負う企業のマージンが輸出価格(相手国の港到着価格+海上保険込)の価格の22%分に決定したと報告した。中間業者のマージンは昨年18%であったので、マージンは上昇したことになる。

また、新シーズンにおいて輸出価格に占める割合は、**18%が政府**、**22%が中間業者**、**60%が生産者**となるとのこと。

4、コートジ産カカオの新シーズンの農家出荷価格は 725CFA=\$1.43/kgに決定(10/2)

コートジボアール政府は、政府公認の2012/2013シーズンのカカオ豆の生産者出荷価格が、725CFAフラン=**\$1.43/kg**になったと発表した。

(\$1=508.2970 CFA francs)

補足解説：

上記のニュースの2、3、4を纏めると、2012/2013シーズンのコートジ産のカカオ豆の価格内訳は下記ようになります。

項目	価格(マージン)/kg	構成比
農家出荷価格	\$1.43	60%
仲介業者マージン	\$0.52	22%
政府	\$0.43	18%
輸送コスト	\$0.03	
CIF 価格平均	\$2.41	100%

5、コートジボワールの 2011/2012 シーズンカカオ豆生産、2.3%減(10/3)

コートジボワールのコーヒー・ココア評議会（CCC）の幹部は3日、記者団に対し、2011～12年度の同国カカオ豆生産高の減少幅は前年比2.3%にとどまり、予測していたより小幅だったと述べた。

同幹部は、昨年の11月半ばから5カ月続いた乾燥天候により、メインクロップの収穫が減少し、ミッドクロップ期の収穫も遅れたことが生産減少につながったと述べた。ただ、前年度に内戦で横行していた密輸による生産損失が軽減された分、生産の減少幅が小幅になったと指摘した。

6、ブラジルのカカオ豆着荷量、前年比38%増。5月1日～9月30日累計で。

ブラジル・バイア州のバイア商業協会が3日までに公表した統計によると、5月1日～9月30日の同国のカカオ豆着荷量（輸入含む）は、前年比38%増の244万4295トンだった。ブラジルは世界6位のカカオ豆生産国。てんぐ巣病の深刻な被害を受ける以前、1990年代始めには世界2位だった。

特集記事：欧州でのチョコレート消費に関する考察

『欧州の景気が落ち込んでいる！』、『カカオの磨砕数量が急激に落ちた！』など欧州経済に関して明るい話は最近ほとんどありませんが、実際この不況によってチョコレート商品そのものの落ち込みがどの程度であるか今まではほとんど示された資料がなかったように思います。カカオの磨砕数量は確かにチョコレート産業の景気動向を示す大きなものですが、必ずしも“消費”を示すものではありません。そこで今週は、欧州のチョコレート小売市場やアジアの新興国のチョコレート市場規模についての分析がありましたので、ご報告いたします。

以下、記事

欧州の景気後退はチョコレートの需要までついには奪ってしまったかのような傾向が少しずつ散見され、この傾向は景気後退の大きな指標として非常に懸念される。

市場アナリストによれば、不景気が長引いた欧州では現在、今まで不調であった安めの商品に加えて、少し高めの商品群の消費も苦戦を強いられている状況だと解説する。

Mintel 社の世界の食品&飲料担当のアナリストは、『欧州の景気不況が始まった頃、我々はチョコレートの消費は不景気促進の指標として捉えており、大きな不景気の前の抵抗線として考えていたが、ついには、そのチョコレートの消費も落ち始めたように思える』と述べる。

『この時期にこれだけ不調なチョコレート市場を今まで私は見たことがない』

同じく Mintel 社の市場調査員は 2012 年世界のチョコレート市場規模は西欧州のチョコレート市場規模が 5%程度落ち込むことで、全体でも **845 億ドル（≒6 兆 6 千億円）** に僅かに落ち込むだろう予測している。

『チョコレートは一度食べると恒常的に食べたくなる特性から他の消費財よりも景気に左右されにくく、最後の段階で消費が落ちるものと考えられている』と調査会社 NIELSEN 社の小売市況担当の欧州役員は説明する。

同社の調査では、2007年から開始した市場調査で2012年の第2四半期に消費財販売数量においてこれまでにない大きな落ち込みを記録し、その中でも得に安い価格帯の消費財の落ち込みが顕著だった。

『景気見通しがこのまま停滞し、暗いままだと、今はまだそこまで焦っていない人々も、より真剣に自己消費の支出を絞るようになり、食品やチョコレートでさえも大きな影響を受けるかもしれない。』前述の役員は懸念を示す。

同社は、西欧州のチョコレート市場規模は去年の317億ドルから300億ドルに落ち込むだろうと予測している。チョコレートでは欧州市場と北米市場は最も大きく、成熟しており、成長の余地は小さい。

『景気の動向に関係なく、多くの西欧州の国々では市場は既にほぼ成熟しきっていて販売数量に関して成長の余地はほとんどないことも覚えておかなければならない』Euro Monitor インターナショナル社の世界食品市場調査のトップは説明する

前述の Mintel 社の予測ではポルトガルとイタリアは急激な消費の落ち込みを見せており、2012年度としては其々11%、7%の下落となるだろうと予測している。

また、世界最大のチョコレート製造会社であるバリーカレボー社は2011/2012の会計年度ではアメリカ、アジア、東欧の販売が好調で不調の南欧州の大幅な落ち込みを補完して2桁成長を実現している。

更に、前述 Mintel 社のデータによると、中国、インドネシア、ベトナム等のアジアの新興諸国では市場が成長している兆候が確かにあるものの、それらの国々ではそれまであまりチョコレート関連商品の需要がなくまだまだ市場としては小さい。

同社の調査データによれば、中国のチョコレート市場は、前年対比で16%成長し、2012年度で **46億米ドル (≒3588億円)** 規模になる見通し。ベトナムは11%成長し **17,000万米ドル (≒132億円)** 規模に、インドネシアは9%成長し **12億米ドル (936億円)** になると予測されている。

*1米ドル=¥78にて算出

*現在の連続シリーズの特集である『フェアトレード特集』は次回フェアトレードラベル・ジャパン様へのインタビューを予定しており、継続しておりますが、今週は引き続き、お休み致します。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp